

‘ὁ κόσμος, ἀλλοίωσις ὁ βίος, ὑπόληψις.’

69号 1993.6.25

文・編集・発行

恋 怪 子

LETTER TO: 岡田幸文様

先日は思いがけなくお会いすることができ、少しの間でしたが久しぶりに
お話しうかがえて楽しかったです。
あのとき岡田さんは私に「ブルーハーツに決別しましたよね。こんど出た
アルバムはどうですか?」とおたずねでした。「決別」という強い言葉
には少しおどろきましたけれど、ロックンロールに関しては、なんとなく
聴きつづけたつもりもありません。なんとなく聴かなくなるといこともし
ませんから、きつぱり聞かなくなりますが、岡田さんのおっしゃるとおり、
ブルーハーツには決別したといえますね。でもいくら決別するとい
ても、耳や心を塞いでほうわけではないのです。
もしブルーハーツがよい音楽をやっていたら、ライブにいかなくても、アル
バムを買わなくても、それはきっとどこからか届いてくると信じているの
です。今年の1月、何人かで下北沢のファーストキッチンにいたときに聴
えてきた音楽があって、みんなで「なんかこれブルーハーツみたい」と
言ちになりました。そのときは誰もそれが実際にブルーハーツだとい
うことも知らなくて、私もその「ブルーハーツみたいなもの」にはなんにも
感じなかったのです。

BON JOVIの“KEEP THE FAITH”は新宿のコーヒ屋でかかって聴い
たとたん「あ、これきっとBON JOVIにちがいない」と思って、ヴァージ
ンメグストアに行って試聴してみたらやっぱりそうで、すぐにCDを買いました。
BON JOVIなんてそれまで全く聴いたことがありませんし、音楽雑誌も
全然読まないのにどうして、BON JOVIだと思ったのでしょうかね。
たまにはレコード屋に入ることもありますから、もしかしたらそこで新譜
“KEEP THE FAITH”のポスターを見ていたからなのかもしれません。
でも、たとえあれがBON JOVIじゃなかったとしても、あのときコーヒ
屋で聞いたロックンロールは見つけられたと思います。有線でかかる
のはたいてい、そのとき出たばかりのメジャーなものですから。
最近、布袋寅泰のライブアルバム“GUITARHYTHM WILD”のCDを
買いました。新宿の地下街で買い物をしてるときにかかっていた
それがすごくよかったので。もちろんそのときはそれが布袋寅泰だっ
てわかりません。買い物をしてた店の若い女の店員さんに「これ、誰だか
知ってる?」ってきいたら、にっこりして「(はい、布袋さんです)って
おしえてくれたのです。

こういうふうに届いてくることもありますし、「これいいから聴いてみて
ください」とCDやテープを聴かせてもらって届いてくることもあります。
ですから、いまはブルーハーツに決別していても、耳と心を閉ざしてい
れば、届くものは届いてくると信じられるのです。

LIVE: BON JOVI 1993.6.6 代々木第一体育館

6月2日のふりがえ公演で、3時の回のあとに6時の回が控えているせいか、定刻
にはじまった。大歓声の中で「曲目“I BELIEVE”、ききはじめてすぐに「あ、ため
だ」と思った。アルバム“KEEP THE FAITH”の中でもとくに好きな曲なのに、
CDで聴くと強く伝わってくるものがなんにもない。観客は大盛り上がり。
「なにこれ、ちょっとよくないやない」とすぐに椅子にすわった。そのうちステージを
見ているのもいやになって目をつぶった。
どの曲もみんなおなじ。観客もみんなおなじ。1時間くらいで会場を出た。
原宿馬車の方へ行くと、日曜日なので歩行者天国になっていて、バンドの演奏
がきこえていた。1万人をこえる観客の前でやっているBON JOVIよりも
もっと真剣にやっているバンドがあるかもしれないと思った。それくらい
BON JOVIのライブはひどかった。ただ流しているだけの手振きのライブ。
手振きをするくらいなら公演をキャンセルするほうがまだましだ。それが
“KEEP THE FAITH”ってものだろう。

2日の公演がこの日に変更になったのは、ジョン・ボン・ジョヴィに(正確にはジョン
の妻に)赤ん坊がうまれたからだとのこと。ステージで変更したことを謝った
とき、ジョン自身がそうだった。ほとんどの観客がそれを見て拍手をした。
ジョンがそれだけ妻を大切にしているのだと思って、それを評価しているの
だろう。私はそんなこと関係ないって思う。なにしろライブを真剣にやら
ないことががまんならない。次の回のことまで考えてパース配分しているよ
うな手振きのライブをやる人間はがまんならない。
“KEEP THE FAITH”はとても素晴らしいアルバムだと思うけれど、それはいまでも
かわらないけれど、6月6日のライブのBON JOVIは最低だ。言っていること(アル
バム“KEEP THE FAITH”)とやっていること(ライブ)がちがうから、それは
不誠実なことだから。この日の代々木体育館に私の居場所はない。

CD: 布袋寅泰 “GUITARHYTHM ACTIVE TOUR '91-'92” “GUITARHYTHM WILD”



次回の布袋のライブには必ずライブCDを聴く
とはくらばたないくらいのことだ。

岡田さんへの手紙(左の記事)に書いたようなことで布袋寅泰のCDを買ったの
だが、実は最初はまちがえて“ACTIVE”の方を買ったのである。家でかけてみたら
地下街で聞いた「カモン、ヨコハマ」という布袋のかけ声が入っていないから。
レコード屋に、たまたま“WILD”が置いてなくて“ACTIVE”の方も“C'MON
EVERYBODY”のつぎが“MERRY GO ROUND”になっていた。で、“WILD”の
方も買ったけれど、どちらかというとむしろある“ACTIVE”の方が好き。

WORDS: 五嶋みどり (週刊文春 6月17日号「阿川と和子」)

この人に会いた。いよいよ。
阿川、世界的な指揮者のズーレン・メ
ータさんに認められて、十一歳の時にニ
ューヨーク・フィルと共演して以来、世
界中から「天才」と言われていて、
ミッドウェン・ホール、天才、という言葉は
日本語の辞書を見ても、英語の辞書を見
ても、なかなかどうという意味が分らない
んです。
阿川、ええ、辞書引いてみたの?
五嶋、ええ、インタビュの時に「天才」と
言われることをどう思いますか?と
とあるまじい聞かれます。でも、辞書
を見てはやっぱり訳は分からないです。
阿川、じゃあ、みどりさんが音楽の世
界でこの人は天才じゃないかなと思われ
る方はいますか?
五嶋、やはり素晴らしい努力をされて
いて、とても自分がアドマイヤー
驚くという方は何人かおられます。
でも、天才だからとか、そのようなこと
はあまり考えなかったです。
阿川、バイオリンを弾いていて、一番
好きな時って、いつですか?
五嶋、音楽に触れている時はいつも幸
せに感じます。弾いている時に限らず、
聴いている時も練習している時も、音楽
を考えているだけでも幸せなんです。
阿川、たとえば悲しい曲を演奏する時
は、悲しい出来事や思いを頭に浮かべ
て、曲に込めたりするんですか?
阿川、なるほど。
五嶋、ものに対する考えではなく、感
じを音楽に出したい、気持ちが音楽に素
直に出てくれば、思っています。それ
でバイオリンを弾いている時は、それよ
りも一歩進んで、音楽が私の音楽である
ようにも思います。うまく音楽にできま
せんが、いろいろな言葉を書かれてい
て、そう感じるようになりますか?
阿川、ちょっと、ちょっと考えてみま
す。なんとなく分からないでもないんだ
けど、そういうふうに考えたこと、なか
ったから、でも時には、仕事として辛
いことはあります。
五嶋、ないです。それにバイオリンを
弾いていることは仕事だと思いません。
阿川、じゃあ、みどりさんにとってバ
イオリンや音楽は何なのかしら。
五嶋、うーん、私はいつも一杯生き
たいと思っています。それが私の人生の
仕事だ。その仕事をすることは一番好き
なバイオリンと音楽に触れていること
とても幸せだと思っています。だから、
お給料をもらって生活のためにという
ではなく、人生の仕事として頑張ってい
きたいと思っています。

SONG: 「インディアン」(マンガンズ)

PHOTO BY K.K

焚き火をかこんでわらってた
スूपでからだをあたためた
やさしい眼をしたインディアン
きのうの酒のにおいがアンアン親方
とくぐの昔にだれかに振りおこされた
宝さがしにやっきになってるインディアン
ぐるぐるまわる ぐるぐるまわる
夜の空に口笛がきこえたら
ありったけの星くずをばらまこう
どこへ行っちゃったあのインディアン
焚き火がきえたらおわりにしよう
風だけがいまは歌ってる
ちりちりばらばらのインディアン
じいさんはどうやら行っちゃった
やっぱり人魚はいるらしい
いつも海ばかりながめてたインディアン
ぐるぐるまわる ぐるぐるまわる
夜の海にちいさな舟をだそう
ダイヤモンドをすくに行こう
どこへ行っちゃったのかあのインディアン
ベイビはおぼえてるかい あのドラム缶
ベイビはおぼえてるかい あのドラム缶
ベイビはおぼえてるかい あのドラム缶

